

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会 令和 5 年度臨時総会

2023 年 12 月 18 日に標記臨時総会がオンライン (Zoom) で開催され、全国の臨床検査技師養成校から教育関係者らが出席した。会の概要を以下に示す。

日本臨床検査学教育学会学術大会

第 18 回大会は 2024 年 8 月 23、24 日に新潟大学 (新潟市) で行われる予定で、大会長は池主雅臣氏 (新潟大) が務める。「多様化する医療現場を見据えた知技の学び」を大会テーマとし、基調講演「頼りになる臨床検査技師を育てる卒前・卒後教育(仮)」、シンポジウム「大学院・卒後研修・リカレント教育について (仮)」などが予定されている。

臨地実習指導者講習会

2023 年 12 月 5 日時点で、臨地実習指導者在籍施設は 1,074 施設となった。1 施設 1 名の受講制限の解除後は受講者が増え、2023 年度は満席状態が継続しているため、3 月下旬の追加講習会の実施を日本臨床衛生検査技師会 (日臨技) と協議中とのことであった。また、施設ごとに最初の 1 名に日本臨床検査学教育協議会から受講費の助成がなされているが、この助成は 2024 年度末まで継続されることが議案審議で承認された。

臨地実習で用いる各種様式については、「臨地実習ガイドライン 2021」内の様式を原則とする必要があるが、受入学生の所属校と調整し、評価しやすい内容に適宜修正することが可能との案内があった。

教員研修会：タスクシフト関連業務の先行導入事例と臨床検査技師の展望

大塚喜人氏 (亀田総合病院) より、標記テーマでの講演がなされた。2009 年に WHO がタスクシフティングを提唱した頃より、タスクシフト関連業務の先行導入事例として、独自に診療支援チームを発

会次第

1. 報告事項

- (1) 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会報告
- (2) 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会報告
- (3) 臨地実習指導者講習会
- (4) タスク・シスト/シェアに関する動画教材作成
- (5) 永年精励賞
- (6) 委員会及び部会
- (7) 国家試験問題検討委員会
- (8) 教育内容 5 年毎見直し作業予定
- (9) 令和 6 年度定時総会日程
- (10) その他

2. 議長及び議事録署名人 選出

3. 議案審議

- (1) 第一号議案 役員選考規定改正
- (2) 第二号議案 臨地実習指導者講習会の受講費助成
- (3) その他

4. 議長解任

足させ、早朝の病棟採血など、臨床検査技師による看護師業務支援を推進してきたとのことであった。また、救急外来にも臨床検査技師を配置することで、医師・看護師業務支援を行っていると報告された。救急外来については、みずから配属を志願する臨床検査技師が非常に多いと言及された。

臨床検査技師の展望については、今後はますます検査の自動化が進み、検査そのものよりも検体採取や検査結果の解釈といった、検査前後の過程に力を入れる必要があるとの説明があった。実際に同院では、医師・看護師よりも臨床検査技師が血液培養を行った時のほうが、汚染率が有意に低いというデータも示された。将来的には検査そのものはほとんど人の手を介さなくなるのではないかという見解を示すとともに、臨床検査技師が検査室にこもる時代は終わろうとしている、診療の最前線で活躍するイメージをもつ必要があり、時代の変化を教育現場から伝えることが重要だと述べられた。(編集部)